

**湖東定住自立圏
中心市宣言書**

彦根市

湖東定住自立圏 中心市宣言

我が国は、今後急速な人口減少時代に突入すると予測されており、三大都市圏と比較してその度合が著しいとされている地方圏の将来は極めて厳しい状況にある。地方圏は、人口減少社会の到来に向けて今後、着実な対応を図っていかねばならない。

近年の財政事情に鑑みれば、全ての市町村にフルセットで生活機能を整備することはもはや困難であり、「選択と集中」・「集約とネットワーク」の考え方にに基づき、同じ生活圏に属する自治体は協力体制を強固にする必要がある。

また、これからの地方圏は、三大都市圏とは違った個性を発揮することで、「魅力ある地方」を創出し、新しいライフスタイルの提供や、地域経済の活性化を図り、人々の定住と都市圏からの移住を促進していくことが求められている。

愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町および彦根市からなるこの圏域は、東に鈴鹿山系、西に琵琶湖を控え、その間に芹川、犬上川、宇曾川、愛知川が流れている。古くは同じ彦根藩として、長い歴史と伝統を持ち、個性を活かしたまちづくりを推進し、湖東圏域発展のために、ともに手を携え歩んできた地域である。

この圏域には、五街道の一つ中山道が縦断し、古来より人と物の往来が盛んな交通の要所として栄え、人の往来によりもたらされる情報は、この圏域の豊かな文化を培ってきた。

現代においても、国道8号と名神高速道路が通過し、今なお物流の要所として大きな役割を担っている。

また、鉄道においては、西日本旅客鉄道の駅が4つ設置され、圏域住民の駅として利用されているとともに、100年以上の歴史がある近江鉄道においては、圏域内の11駅がネットワークを結び、圏域住民の交流を活発なものとしている。

近年、モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化により、人々の生活範囲は拡大の傾向にあり、この圏域住民の活動範囲も同様に、自らが住む地域を越えて、広がりを見せている。

このような状況を踏まえ、住民生活の広域化やニーズの多様化に対応するためには、それぞれの自治体を持つ個性を活用し、圏域内都市農山村の交流など自治体間の連携によって圏域住民の生活を支え、より豊かに、よ

り効率的に発展させていく必要がある。

従来から手を携えてきたこの圏域は、連携する意思を有する周辺自治体とともに、それぞれの個性を活かした「魅力ある地方」を共に創り出すように、今まで以上に連携することが重要である。

彦根市は、この圏域の歴史の積み重ねを念頭に、周辺自治体との協調と連携を旨とし、圏域全体の住民福祉の向上と地域振興のために、責任を持って、周辺自治体とともに全力で取り組むことを宣言する。

平成21年4月15日

彦根市長 獅山 向洋

1. 都市機能の集積状況及び利用状況

彦根市は、本市住民のみならず近隣町の住民にも広く利用される文化施設、商業施設、教育施設、医療施設など、高度で専門的なサービスを利用できる環境を備えている。

産業面では、大手企業の本社や主力工場があり、地場産業としてはバルブ製造において、全国で唯一の集積地であるとともに、彦根仏壇は経済産業省の伝統的工芸品の認定を受けるなど、ものづくりが盛んである。また、観光資源に恵まれた本市は、多数の観光客が訪れることから、コンベンション機能を備えた宿泊施設も彦根城の周辺に立地している。

教育面では、市内に7つの高校と3つの大学を有し、例えば滋賀大学が彦根商工会議所から商店街交通量調査の解析業務（平成18年度）を受託したり、彦根市の地域公共交通活性化・再生総合事業において、滋賀県立大学がコンサルタント業務を担当するなど、産学官連携の取組が展開され、市の活性化に結びついている。

公共交通においては、市内に4つの西日本旅客鉄道の駅を有し、各駅から周辺4町へと伸びるバス路線があるなど、圏域住民の駅として利用されている。南彦根駅周辺は、大規模商業施設、彦根市立病院、滋賀県立大学、ひこね市文化プラザが近接し、文化・商業・教育・医療各施設の集積が目覚ましい。特に、南彦根駅に隣接する大型商業施設においては、映画館・ボウリング場・飲食店街などを備えており、商業施設と娯楽施設としての機能を兼ね備えている。

さらに、市内には、国道8号が走り、名神高速道路彦根ICを備えるなど、交通・物流の要所ともなっている。

このように、本市には都市機能が集積しており、地域の拠点都市としての役割を果たしている。

主要な都市機能の集積状況は、次のとおりである。

(1) 高度・救急医療

本市には、滋賀県湖東圏域唯一の公立病院である、彦根市立病院があり、外来・入院ともに1市4町からの患者でほとんどを占めている。例えば、入院患者の割合は、1市4町の患者で全体の90%を占めている状況であり、彦根市立病院が地域医療の中核的担い手であることが分かる。

彦根休日急病診療所は、彦根市が豊郷町、甲良町および多賀町より負担金を受け運営を行なっている。

第二次救急医療については、前述の3町に加え、愛荘町が参加する愛知郡広域行政組合からも負担金を受け、彦根市立病院のほか、友仁山崎病院、彦根中央病院、豊郷病院（豊郷町）、湖東記念病院（東近江市）の各病院輪番制で救急体制の維持に努めており、小児救急医療については、彦根市立病院、友仁山崎病院および豊郷病院（豊郷町）で救急体制を確立している。

【彦根市内の医療体制】

	施設名	病床数	診療科目数	救急告示病院
公立病院	彦根市立病院	456	21	
私立病院	彦根中央病院	350	16	
	友仁山崎病院	157	9	
休日診療	彦根休日急病診療所			
診療所	75ヶ所			

資料：滋賀県彦根保健所および彦根市統計書（平成19年度版）

【彦根市立病院地区別患者数】（平成19年度）

（外来患者） （人）

	外来患者数
愛荘町	9,135
豊郷町	5,506
甲良町	9,706
多賀町	16,246
彦根市	221,096
その他	24,903
全外来患者数	286,592

資料：彦根市立病院医事課

（入院患者） （人）

	入院患者数
愛荘町	268
豊郷町	156
甲良町	274
多賀町	446
彦根市	5,255
その他	707
全入院患者数	7,106

資料：彦根市立病院医事課

【彦根市休日急病診療所利用状況】（平成19年度）

（人）

診療日数	受診者数							
		愛荘町	豊郷町	甲良町	多賀町	彦根市	その他 県内	県外
72	2,811	72	92	92	114	2,266	83	92

資料：彦根市健康管理課

（2）高等教育

本市は、7つの高校と3つの大学を有しており、経済、環境、文化、工学系分野で、質の高い教育が提供されている。また、滋賀大学には産業共同センター、滋賀県立大学には地域産学連携センターが設置されており、産学官連携が活発に行なわれている。

【彦根市内の高等学校】（平成20年5月1日現在）

（人）

学校名	学科	生徒数	備考
滋賀県立彦根東高等学校	普通科	1,182	全日制・定時制併設
滋賀県立河瀬高等学校	普通科	705	中高一貫校

滋賀県立彦根西高等学校	普通科 家庭科	562	
滋賀県立彦根工業高等学校	工業科	840	全日制・定時制併設
滋賀県立彦根翔陽高等学校	総合科	596	
学校法人近江育英会 近江高等学校	普通科 商業科	715	
学校法人松風学園 彦根総合高等学校	普通科 総合科	422	

資料：滋賀県教育委員会「数字で見る滋賀の教育（統計資料）」

【彦根市内の大学】

学 校 名	学 部	大 学 院	備 考
国立大学法人滋賀大学	経済学部	経済学研究科	大津市に教育学部を併設
公立大学法人 滋賀県立大学	人間文化学部 人間看護学部 環境科学部 工学部	人間文化学研究科 環境科学研究科 工学研究科	
学校法人聖ベトロ学園 聖泉大学	人間学部 短期大学部		

資料：各大学ホームページおよび聞き取り

【彦根市内の3大学学生数及び教員数】（平成20年5月1日現在）（人）

学 校 名	学 生 数			教 員
	大 学	大 学 院	合 計	
国立大学法人 滋賀大学	2,640	126	2,766	103
公立大学法人 滋賀県立大学	2,232	289	2,521	204
学校法人 聖泉大学	355		355	35

資料：滋賀県教育委員会「数字で見る滋賀の教育（統計資料）」および各大学ホームページ

（3）文化施設

彦根市は、本格的な音響設備を兼ね備えたひこね市文化プラザがあり、様々なイベントが開催されている。イベントには、彦根市民だけでなく、他地域からも多数観覧者や参加者があり、地域を越えた人々の交流の場となっている。

【彦根市内の文化施設】(平成19年度)

施設名	区分	収容人員	利用日数	利用者数(人)
ひこね市文化プラザ	グランドホール	1,480	153	96,254
	エコホール	346	160	27,919
	メッセホール	270	168	23,384
合計		2,096		147,557

資料：平成19年度財団法人彦根市文化体育振興事業団事業報告書

(4) 商業施設

彦根市には、大型商業施設が複数営業されており、近隣市町から多数の人が買い物に訪れる。中でも、ビバシティ彦根やカインズモールは、1市4町圏域のショッピングセンターとしては、最大規模を誇り、集客能力の高い商業施設である。特に、ビバシティ彦根には映画館・ボウリング場・飲食店街を備えるなど、娯楽施設としての機能も兼ね備えている。

【購買動向】(平成18年度)

(%)

		購買先					
		愛荘町	豊郷町	甲良町	多賀町	彦根市	その他
居住地	愛荘町	49.3	6.4	0.9	0.1	21.7	21.6
	豊郷町	9.3	38.5	1.2	0.1	40.9	10.0
	甲良町	7.5	4.5	18.3	0.1	62.7	6.9
	多賀町	2.6	1.0	2.3	12.9	75.3	5.9
	彦根市	0.4	2.1	0.1	0.1	89.3	8.0

資料：消費購買動向調査(平成18年9月)

(5) 公共交通

彦根市は、国道8号や名神高速道路が市内を走り、交通・物流の要衝となっている。また、鉄道としては、市内に西日本旅客鉄道株式会社の駅を4つ有しており、周辺4町の住民も通勤通学等に利用している。さらに、各駅から4町方面に路線バスが運行され、周辺4町住民の生活を支えている。

【彦根市内4駅の乗客人数】(平成18年度) (人)

	年間	1日平均
彦根駅	3,564,955	9,767
南彦根駅	1,752,000	4,800
河瀬駅	1,175,300	3,220
稲枝駅	943,890	2,586
合計	7,436,145	20,373

資料：西日本旅客鉄道株式会社

【名神高速道路 彦根 I C における出入自動車台数】(平成 18 年度)(台)

彦根 I C から流出した車両		彦根 I C から流入した車両	
総 数	1 日平均	総 数	1 日平均
2,153,900	5,901	2,156,895	5,909

資料：中日本高速道路株式会社

【基幹路線（市外線）における運行状況】(平成 20 年 3 月 15 日現在)(本)

	駅発	駅着
彦根駅 多賀町方面	20	21
南彦根駅 多賀町方面	9	9
河瀬駅 甲良町方面	12	12
稲枝駅 豊郷町経由愛荘町方面	4	5

資料：彦根市交通対策課

2. 想定する連携項目

周辺町と連携する項目としては、次のような取組を想定する。

【連携項目】

視 点	分 野	取 組 内 容
生活機能の強化	教育	中心市に拠点図書館を整備し、周辺図書館との図書貸出・返却における相互利用を実現し、圏域住民の誰もがどこでも利用しやすい図書館ネットワークの構築を図る。
	医療	彦根市立病院を中心として、病診連携、病病連携を図り、救急医療体制の充実や地域医療情報センターの整備を促進する。
結びつきやネットワークの強化	地域公共交通	現在運行しているバス路線を幹線として位置付け、利便性を再検証するとともに、支線として乗合タクシーの導入を検討するなど、圏域全体を見据えた公共交通ネットワークを構築する。
	地域の生産者・消費者等の連携による地産地消	甲良町に道の駅が整備されることや、他町において地元農産物の直売所を新規設置されることを契機として、地元農産物の品質確保や学校給食への安定供給など、地産地消に関するコーディネート力に優れた外部人材を活用し、地産地消のシステム確立と促進を図る。

圏域マネジメント能力の強化	圏域内市町村の職員等の交流	専門性を有する業務において、中心市と周辺町の職員の人事交流を行い、業務ノウハウの提供および吸収をすることで、圏域全体の行政力向上を図る。
---------------	---------------	--

上記連携項目のほか、観光振興（旧中山道の活用、グリーンツーリズム等）や低炭素社会の構築（サイクルロード、林業振興）などにも連携して取り組んでいきたい。

3. 彦根市への通勤通学割合が1割以上の市町の名称

本市への通勤通学の割合が1割以上ある市町は、以下の通りである。

【通勤通学割合】

	通勤通学割合 (A / B) (%)	本市に対して通勤通学 する就業者数および通 学者数(A) (人)	常住する就業者数お よび通学者数(B) (人)
米原市	13.5	2,681	19,927
愛荘町	16.8	1,653	9,840
豊郷町	24.2	816	3,373
甲良町	28.5	1,024	3,598
多賀町	32.5	1,257	3,872

資料：平成17年国勢調査（常住する就業者数は、自宅従業者を除く。）